本棚と人の相互作用

須藤　芳加

私たちは書店や図書館に行った際、本棚によって面白い、退屈など様々な感情を抱く．ここから本棚は人に影響を与えているのではないかと考えられる．また，それは同時に人が本棚に影響を与えているとみることができる．例えばサッカーに関する本棚を見る際，サッカー好きな人は興味を持つが，そうでない人は興味が湧かないなど，同じ本棚を見ても人によって感じ方が異なる． 同じ本棚にも関わらず人によって感じ方が異なるのは，頭の中の認識や思考を無意識に本棚に投影しているからであると考えられる．そこで本研究では，本棚の構成と人の認識の相互作用について考察することを目的とした．

この目的を達成するため，調査を二段階に分けて行った．第一段階では本棚作成に関するインタビュー調査を書店・図書館に対して行い，本棚を構成する際の観点を導出した．第二段階では，導出した観点を元に本棚を実際に構成し，本棚の印象を調査した．

インタビュー調査は小規模書店 2 件，大規模書店 2 件，図書館 2 件を対象に行った．インタビューにあたっては，実践されている並べ方，本棚の様式による人間への作用差，図書館と書店での本棚の様式・本棚作成の意図の違いという 4 項目について尋ねた．調査の結果，「表紙のデザイン性が高い / 低い」「本の大きさを揃える / 揃えない」「主題を設定する / しない」「冊数が多い / 少ない」「同じ本群を並べ替える」という 5 つの観点を導出することができた．

第二段階では，導出された観点のうち，視覚的に比較できる 2 つの観点「本の背の高さを揃える / 揃えない」と「表紙のデザイン性が高い / 低い」について，実物の本棚と電子の本棚の両方を構成し、筑波大学の学群生 4 人と大学院 1 人に対して印象調査を行った。その結果，1. 本の高さを揃える本棚は視線移動を阻害しない，2. 高さを揃えない本棚はストレスを与える，3. デザイン性の高い本を並べた本棚は強く興味を惹く反面，本同士の繋がりがないという印象を与える，4. デザイン性の低い本棚は情報量が少なく，インパクトを与えないことなどが明らかになった．

本研究は最終的に次の知見が得られた． 1. 人は本棚を解釈しながら見ている．2. 本棚作成者の意図はかなりの部分，利用者に伝わっている．3. 同一の本棚に対する解釈はほとんど差がない．4. 実物の本棚に違和感のある人はいないが，電子の本棚に対しては違和感のある人とない人に分かれる．5. 書名などに含まれる言葉は本の高さやデザイン性より強い印象を与える．6. 本と本の関連は階層的に解釈される．7. 高さが揃っている本棚は本の繋がりを見つけやすい．8. 表紙と背表紙で本棚に対する解釈が異なる．9. 読書歴や書店・図書館の来往歴が多い人ほど多様な解釈を行う．

（指導教員　宇陀則彦）